

# 【屋久島植生概況調査説明書】

やまもとひでお  
山本秀雄

古書店から『屋久島植生概況調査説明書』

という和紙謄写版本を入手した。

著者・刊年・発行所等不明であるが、「屋久島の特長ある植物を調査説明」したものである。「ヤクタネ五葉松」は、種名をアマミゴエフマツというようだが、その理由が素人にもわかる説明がしてある。

どうも地元営林署員の編集になったものか、目次は、

- 一、位置
- 二、地形地質ノ概要
- 三、気象
- 四、生態概況調査
- 五、植生単位ノ類別及関係事項
- 六、植生調査簿
- 七、植生分布図

の七項目から成っている。  
本誌には、第四項の「生態概況調査」、並びに、第五項の「植生単位の類別及関係事項」の二項目について、抜粋・紹介させて頂きま

## 四 生態概況調査

本島ノ森林ハ、其ノ植生形相ヲ一般的極ク簡單ニ区分スルトキハ、結局、次ノ三種ニ觀察サレル。

- 1 海岸及山麓ノ常緑潤葉樹林
- 2 針潤混淆林（針葉樹ハ、スギ、モミ、ツガ等、暖々温帯ニワタルモノノ意）
- 3 ヤクシマダケニ蔽レタ笹生地

又、本島ノ植相ヲ森林生態学的見地カラ極ク簡單ニ区分スルトキハ、此レモ次ノ三種ニ觀察セラレル。

- 1 照葉樹ニ依ル純常緑潤葉樹林
- 2 マツ属（クロマツ、アカマツ、アマミゴエフマツ）ト常潤（低位混淆林）及其ノ他針葉樹（スギ、モミ、ツガ）ト一般潤葉樹（高位混淆林）トニ依テ形成サレテ居ル広キ意味ノ針潤混淆林
- 3 其ノ他（海岸林、人為ニ依ル途中相、

笹生地）

此ノ区分ハ、前述ノ地形地質ニ密接ナ連携ガアルノデアツテ、一ハ、常ニ陰湿ナ環境ヲ保持スル粘板岩、砂岩等ノ水成岩上ニ存在スル。2ハ、本島山岳林ノ大部分ヲ占メ、花崗岩ヲ基岩トシ、前者ニ比シ通水性ノ表土ヲ有シ、且風化崩潰ニ基テ相当面積ノ疎開露出ヲ生ジ易ク、針葉樹ヲ侵入セシメ易イ事ヲ一因トシテ成立シテ居ルト思ハレル植生。3ハ、其ノ位置ガ氣象上ノ両極端ニアルモノ、及海岸段丘上ノ耕地、及一旦耕地化サレタ箇所ガ放任サレテ連続ヲ開始シテ居ルモノデアル。何レニシロ、右ノ様ナ形相ノ変化ハ海岸カラ中央ノ頂上地域ニ達スル途中ニ於テ判然ト眼ニツク処デアルガ、吾々ノナシ得タ踏査ニ依テ更ニ其ノ間ノ形相ノ変化ヲ觀察シ、所定ノ様式ニ基キ要所所ノ生態概況調査ヲ行ヒ（調査ノ結果ハ添別紙ノ通り）、且各所ニ於ケル觀察記録及参考文献ヲ加味シテ、次項ニ述ブル植物群系ノ査定ニ資シタノデアル。

## 五 植生單位ノ類別

### 及關係事項

A 屋久島暖帯下位植生

タブノキ、シヒ類、イスノキ、ヒメシヤ  
ラ、アコウ、アマミゴエフマツ群系

本群系ハ後述ノ通り次ノ様ニ区分サレル。

A I : : 水成岩地域ヲ主トシテ、純常潤ヨ  
リ成ルモノ

A II : : 花崗岩地域ヲ主トシテ、マツ属ヲ

主トスル針葉樹ヲ含ムモノ

B 屋久島暖帯下位及上位間ノ移行帯植生

イスノキ、バリバリノキ、カシ類、スギ、  
ツガ、ヤマグルマ群系

C 屋久島暖帯上位植生

スギ、ツガ、モミ、ヤマグルマ、ミヤコ  
ダラ、シロダモ群系

D 屋久島温帯性植生

スギ、モミ、ヤマグルマ、ヒメシヤラ、  
ヤマボウシ群系

D 屋久島最高地域原野状植生

ヤクシマダケ、スギ、ヤクシマシヤクナ  
ゲ群系

E 屋久島海岸林植生

クロマツ、スダジヒ、モクタチバナ、シ  
ヤリンバイ、シマウバメガシ群系

本島ノ植生ハ、以上ノ如ク六群系(A I、

A II)ヲ各々獨立セシムレバ七群系)ニ分チ得  
ルモノデアル。此レハ、各般ノ因子ニヨリ、  
幾個カノ安定、不安定ノ群叢ニ類別サレルデ  
アラウガ、本調査デハ先ヅ群系限リノ類別ニ  
止メタノデアル。

各群系ノ説明ニ移ル前ニ、参考トシテ、屋  
久島ノ植物区系地理上ノ位置ニ付テ云ヘバ、  
此ノ附近ハ重要ナ境界線トシテ論議サレル処  
デアツテ、最モ大ニシテ云ヘバ、全北植物区  
系界ノ南限デ、旧熱帯植物区系界ノ北限境界  
線附近ニ位置シテ居ルモノデ、小ニシテ云ヘ  
バ、夫々、各区系界中ノ日本植物区系地方南  
限デ、南支琉球台湾区系区ノ北限附近ノ存在  
デアル。

而モ、斯ノ如キ境界附近ノ小区トシテ、南  
北ニ連続スル相当顯著ナ植物区系ヲ現出シテ  
居ル存在デアル。然シナガラ、屋久島ハ、結  
局、全北植物区系界中ノ日本地方ニ属スル小  
区デアツテ、生育階的二見テモ又量的二見テ  
モ、本島森林ノ最重要分子タル松杉科植物ノ  
全部(スギ、ヒノキ、モミ、ツガ、クロマツ、  
アカマツ、アマミゴエフマツ)ノ地理の分布  
ハ屋久島ヲ南限トシテ、夫レ以南ノ諸島ニハ  
産シナイノデアツテ、此ノ事實ダケデモ、本  
島ト本島以北ノ日本地方トハ、本島以南ノ諸

島ヨリ、ヨリ密接ナ關係ニアル事カ充分証明  
サレルノデアル。

此レハ、屋久島ト屋久島以南ノ島々ノ海拔  
高ノ關係モ存在スルト共ニ、奄美大島ト本島  
トノ間ニアツテ熱帯区系界ニ入ルベキ極ク低  
標高ノ所謂十島村ノ島々ガ、極ク新シイ沖積  
期ノ噴出島デアル事モ關係シテ居リ、北方分  
子ガ屋久島ヲ以テ南限トシ、其レ以南ニハ遂  
ニ分布シ得ナイモノガ多イノハ当然ノ事ト思  
ハレルノデアル。

A 屋久島暖帯下位植生

タブノキ、シヒ類、イスノキ、ヒメシヤ  
ラ、アコウ、アマミゴエフマツ群系

下部ハ海岸林ニ接続シ、上部ハ自然ト針葉  
樹、スギ、ツガノ散生状態ヲ呈スル様ニナツ  
タB群系ニ続ク間ノ純常緑闊葉樹群ヲ主体ト  
スル群落デアル。即チ、先ズ本島ニ上陸シ、  
一見シテ、前岳山岳地域ノ峰ト云ハズ谷ト云  
ハズ一面ニ厚ク覆ヒ盡クシテ止マナイ状景ヲ  
示シテ居ルモノデ、一般ニ暖帯南部ノ常緑闊  
葉樹デ占メラレテ居リ、此レニ裸子植物、ナ  
ギ、イヌマキノ小中径木ヲ時ニ点在セシメ、  
高温多湿ナ氣候条件ノモトニ成立シタ本邦ノ  
多雨林群落トモ云フベキ形相ヲ呈シ、南日本  
ノ闊葉樹群落中、南隅半島ノ暖帯下位植生ト  
類似ノ形相トナツテ居ル。森林ハ一般ニ多ク

ノ層ヨリ成リ、藤本着生植物モ著シク多ク、  
林床植物ニハ大型ノ羊齒類ガ多数存在シテ居  
ル。南部西部ニ、マツ属ノ種ガ重要ナ存在ト  
ナツテ居ルノハ興味アル存在デア  
ル。

一般ニ、主トシテ、カシ類、スダジヒ、マ  
テバシヒ、イスノキ、アカガシ、タブノキ、  
其ノ他、樟科植物、マガタマノキ、及落潤ヒ  
メシヤラ、ヒコサンヒメシヤラヲ主要優喬木  
トシ、従属的ニハ、以上樹種ノ外、ナギ、イ  
ヌマキ、クロマツ、時ニアカマツ、ヒメユツ  
リハ、コバンモチ、サカキ、ヤブツバキ、シ  
マサルスベリ、サクラツツジ、タイミンタチ  
バナ、クロバヒ、モチノキ、シマウリカヘデ、  
ヤマビハ、モクコク、アデク、カクレミノ、  
フカノキ、モクタチバナ、トキハガキ、オニ  
グロキ、ミミズバヒ、サンゴジュ、ガジュマ  
ル、ヘゴ等ニ依テ構成サレテ居ル。南事業区  
ニハ、本群系中ニアマミゴエフマツガ各階、  
特ニ優喬木階ノ重要分子トナツテ居ル群落ガ  
大凡ニケ所ニ存在シテ居ルノハ、九州本土ニ  
於テ、普通、暖帶上位植生（本島ノB、又ハ  
C群系ニ相当ス）以上テナケレバ存在シナイ  
落潤ヒメシヤラガ、本島ニ於テハ本群系ニ迄  
下リ、而モ本群系ノ相当顯著ナ構成分子ノ一  
員トシテ参加シテ居ル事ト共ニ、特ニ注目サ  
レル処デア  
ル。

以上ノ如キ植生ハ非常ニ鬱蒼タルモノデア

ツテ、全屋久島ノ群系中、植物ノ種類カラ見

テモ又生育形ノ様式カラ見テモ最モ多層的デ  
アリ、且最モ複雑ナモノデア  
ル。本群系中ノ  
下部カラ谷筋ニカケテハ更ニ此ノ特徴ハ増加  
シ、其ノ形相ハ正ニ本島ニ於ケル異觀ノ一デ  
アツテ、熱帶産南方分子ヲ多ク含ミ、本格的  
多雨林群落ノ一班ヲ現出シテ居ルモノト云ツ  
テモ良イ位デ、奇怪ナ大径ノ樹相ヲ現スアコ  
ウ、ガジュマル、フカノキ、シマサルスベリ  
ヤ、ギョボク、モクタチバナ、セウベンノキ、  
バクチノキ、ハマセンダン等ガ、ハドノキ、  
ヤナギイチゴ、リウキウアヲキ、シマイヅセ  
ンリヤウ、シマコンテリギ、クハズイモ等ヲ  
混ジ、又、カギカツラ、ウドカツラ、其ノ他、  
大型藤本植物ガ横行シ、其ノ他、ヘゴ、リウ  
ビンタイ、ナチシダ等ノ大型羊齒類、オホタ  
ニワタリ、アラネカツラ、セキコク、チケイ  
ラン等ヲ始め、羊齒類蘭科ノ大中小型着生植物  
ヲ含ンデ成立シテ居ルノデア  
ル。斯ノ如キ傾  
向ハ、後段ニ述ブル海岸林ノ内部カラ山麓地  
帯ニカケテ最モ多分ニ存在シテ居ルベキモノ  
ガ、普通ニハ人為ニ依テ切断サレ、安房川、  
宮之浦川、栗生川ヤ、其ノ他、大小ノ溪流ニ  
沿フタモノガ良ク内部ニ侵入シ、斯ノ如キ大  
溪デハ特ニ相当深ク内陸地域ニ迄入り込ンデ  
居ルノデア  
ル。

然シナガラ、其等分子ノ構成スル景觀ハ從

属的ナ一特徴ニ止ルモノデアツテ、優從喬木  
階ヲ構成スル主要分子ノ区系の排列ハ、前述  
セル一般暖帶南部ノ固有常緑潤葉樹ガ其ノ大  
勢ヲ決定シテ居ル事ニハ少シモ変リハ見セナ  
イノデア  
ル。此ノ如キ事実ハ、又逆ニ云ツテ  
本島ニ於ケル本群系中ノ注目スベキ事項トス  
ル事ガ出来ルノデア  
ル。

古クカラノ人為ニ基ク途中相ハ、殆ド大部  
分ガ本群系内ニ在ルノデアツテ、主トシテク  
ロマツ、時ニクヌギヲ主体トスル途中單純植  
物群落ヲ処々ニ見ル事ガ出来ル。

本群系ハ、水成岩質ト花崗岩質ノ地域ニ跨  
ツテ居リ、又幾多ノ深い溪谷ヲ有シ、且該当  
ノ標高モ場所ニ依リ最高ハ〇〇mニ及ンデ居  
ル処ノ常潤ヲ主トスル群落デア  
リ、其ノ他、  
各種ノ氣候的生物的因子ニ基イテ幾個カノ群  
叢ニ類別サルベキモノヲ抱括シテ居ルノデア  
ル。即チ、標高二基ク樹種ノ分布、多雨林的  
傾向ノ有無、濃厚山麓地帯ニ見ル第二次連続  
ケ所、及次ニ記スアマミゴエフマツ、マガタ  
マノキ（時ニアカマツ）ノ存在、及カシ類ノ  
分布等ノ因子ニ基キ、幾個カノ安定群叢ト不  
安定群叢ニ分チ得ルモノデア  
ル。此処デハ群  
系限リノ説明ニ止メル訳デア  
ルガ、然シナガ  
ラ、一般本群系ガ本島ノ東及北部方面ニ於テ  
殆ド純粹ノ照葉樹群落ニ依テ形成サレテ居ル  
ノニ對シテ、西及南部ノ方面ハ特ニ多クノク

ロマツ、アマミゴエフマツ、イヌマキ（時ニアカマツ）等ノ針葉樹ヲ混ジテ居ル事ハ、前者ニ於テ、水成岩系ノ発達カ特ニ広ク良好デ人爲ニ依ル干渉面積ハ同岩系内ノ局部ニ止ツテ居ルノニ對シテ、後者、南西方面デハ、水成岩系ノ所ハ殆ド全ク人爲干渉ノ支配下ニ存在シテ居ルカ、或ハ全ク存在セズ、結局、天然林ハ殆ド全部ガ花崗岩ヲ基岩トスル環境ニ在ルモノデアル事ト相俟ツテ、既ニ述ベタ如ク、地形地質ト植物ノ密接ナ關係ヲ示ス重要ナ相異ト思ハレルノデ、特ニ前者、東及北部ノ本群系ヲA I群系、針葉樹ヲ含ム南及西部ノモノヲA II群系トシタノデアアル。

尚、此等ハ植相上、優從喬木階ノ一部ニ於ケル上述低標高二生立スル針葉樹ノ存否ヲ相違トスルモノデ、其他ノ優喬木階ノ構成分子ヤ灌木階以下纏繞植物等ノ從屬種ハ、大部分相共通スルモノデアル事ハ論ヲ俟タナイ。

次ニ、本群系中ニ現レタ特殊樹種ノ存在ニ依テ、吾々ノ見タ植相上ノ重要事項ト思ハレルモノヲ記セバ、次ノ通りデアアル。

### I アマミゴエフマツ

アマミゴエフマツ *Pinus amamiana* Koide  
ハ、大喬木ニナル五葉松デアツテ、本島及種子島ニ限テ生立シテ居ルモノデアアル。

種名 *Pinus amamiana* トアルノハ、奄美大島ヲ

含ンダ列島ノ北端ノ島ニ存在スルト云ツタ様ナ意味ニ解釈シテ然ルベキカト思ハレルノデアアルガ、別ニ奄美大島ニハ存在シテイナイノデアアル。從テ、アマミゴエフマツ、ト云フノハ適当カ否カ、徹底シナイ釈ナノカ知ラナイガ、本種ノ和名ハ書ニ依テ異ツタモノガアルノデアアル。曰ク、ヤクシマゴエフ、タネカシマゴエフ、タネヤクゴエフマツ、タカネゴエフ（此レハ支那中部・台湾ニ広ク産スル、タカネゴエフ、一名シマテフセンマツ *Pinus arandii* Franch. ノ同種トセルモノカ）等デアアルガ、此処デハ、植物総覽森林家必携ニ捩テ命名、頭初ノアマミゴエフマツトシタノデアツテ、特徴トシテハ、五針葉ハ長約六cm、強剛デアアル事、毬果ハ長凡四〜五cmデ大型毬果デナイ事等カ、顯著ナモノトナシ得ルガ、木肌ハ一般ニヒメコマツニ似テ居リ、向キニ依テハモミノ肌ニモ似テ居ル。

本種ハ、屋久島デハ南事業区ノ本群系ニ限テ存在シテ居ルノデアツテ、単木的ニハ南事業区ノ此ノ带状地域内ニ極ク点々ト存在シテ居ルラシイノデアアルガ、樹群ヲ形成シ、且又一地区ノ重要ナ構成分子トシテ特別ナ群叢ヲ形成シテ居ルノハ、次ノ二区域デアアル。

一 屋久島南事業区破沙岳国有林、四七、

四八、四九林班、特ニ四七、四八林班界ヲ中心トスル区域

2 屋久島南事業区平瀬国有林、三、四、

五、九林班

何レモ前岳ニ属スル部分デ、海岸ニ向テ

開放サレタ地域、標高ハ二〇〇〜五、六

〇〇mノ範圍内

局部的デハアツタガ、概況ヲ調査スルヲ得タ第一ノ地域ニ於ケル状況ニ依リ、本種ノ立地ヲ探究スルニ、本種ハ専ラ峰通りニ多ク、巨大ナ生育形ノ群落ヲ存在セシメテ居ル。而モ、此ノ団地一帶ハ水成岩ノ地域ヲ離レ花崗岩ノ地域ニナツテ居リ、且岩石ノ露出モ比較的ニ多イ処デ、一般本群叢ノ主要樹種トシテハ、他ニ、ツガ、ヒノキヲ峰通りニ僅カニ混ジ、ヤマモモ、アカガシ、ウバメガシ、ウラジロガシ、スダジヒ、マテバシヒ、シヤリンバイ、イスノキ、ヒメシヤラ、モクコク、サカキ、アデク、カクレミノ、アセビ、サクラツツジ、タイミンタチバナガ占メテ居リ、特ニサクラツツジ、タイミンタチバナハ本群系一般ノ通有性トシテ著シク多イノデアアルガ、更ニ此処デハ、ウバメガシ、シヤリンバイガ其ノ種トシテハ相当大径ノ生育形ヲ多分ニ分布セシメテ居ルノデアツテ、斯ノ如キハ他ニ余リ見ナイ処デアリ、又アセビガ峰通りニ相当多イノモ本群系内デハ珍ラシイ存在ト思ハレルノデ、此等ノ現象ハ、アマミゴエフマツノ存在ト共ニ、本群叢ノ一特徴トナシ得ルノ

デアル。

此等ニ依テ見レバ、本群叢ハ本群系中比較的乾燥セル区域ニ存在シテ居ルノデアツテ、アマミゴエフマツヲ取巻ク四近ノ常緑潤葉樹ハ、斯ノ如キ環境ノ為力、特ニ樹高ノ幾分矮形的ナ感ジガアルノデアアル。云ハバ南面ノ沿海常潤林デアツテ、其ノ中ノ本種ノ存在ハ、本島ノ海岸林或ハ九州南部ノ内陸常潤林ニ見ラレル、如何ニモ大径クロマツノ存在シサウナ処ニ見ラレルノデアアル。第二ノ団地ハ踏査スルヲ得ナカツタノデアアルガ、此処トテモ、直接海岸ニ接シテ居ル花崗岩地域急傾斜面ノ中腹デアアルカラ、兩者共、相類似ノ環境ニアル事ガ想像サレルノデアアル。

本種ノ標高二関スル分布区域ノ限界ハ、前述ノ通り二〇〇〜五、六〇〇mノ前後ガ最適環境デアルト思ハレ、恐ラク七〇〇m以上デハ極ク僅少ノ存在ニナツテ居リ、群叢ノ優喬木トシテハ問題ニナラナイ程度ノ存在ニナツテ居ルモノト信ゼラレル。即チ、本種ハ、結局、A群系ヲ◇エトスルモノデアツテ、立地ガ次ノB群系ニ移行スル程ニ其ノ分布密度ハ少クナツテ行クノデアアル。

現地ニ於ケル実数量ノ調査ハナシ得ナカツタノデアアルガ、兎ニ角、本種ハ、本群系中ノ一地域内デ優喬木階ノ重要分子タル大生育形ヲ現出シテ居ルノデアアルカラ、本種トシテハ

以上ノ二ヶ所ガ最適ノ環境ト見做シ得ルモノデアリ、斯ク考ヘテ斯ノ如キ相当通直デ巨大ナ生育形ノ分布現況ヲ見ルト、之ガ利用的欲求ト共ニ、種ノ群落状態トシテノ保続ト云フ事ガ重要ナ事項トシテ考ヘラレテ来ルノデアアル。

種子島ニ於テハ、本種ハ利用シ尽サレントシテ非常ニ少クナツテ居ルノデ、利用ノ問題ト共ニ此ノ事ハ緊要ノ實際問題デアルト思ハレルノデアアルガ、屋久島ニ於テモ、将来ニ於テ本群叢ノ利用更新ハ事實問題トシテ取扱ハ

### 【附記】

はじめに「屋久島植生概況説明書」の中から、目次の四と五の項を抜粋・紹介すると書いたが、五項は単にその一部分「アマミゴエフマツ」の一節だけになってしまった。

読者は既に、本誌五十二号（平成十二年五月発行）掲載、金谷整一先生の詳細な「ヤクタネゴヨウ」の種名・学名の変遷記事に接しておられようから、素人の話は措きますが、

「アマミゴヨウ」は「ヤクタネゴヨウ」と同一で、名前をアマミと云うが奄美には生育しないこと、従つて産地の屋久島・種子島にちなんで、「ヤクタネゴヨウ」と改名されたことを知る。また酷似種が中国本土、台湾の高

レル事ニナルドラウト思ヒ（尤モ第二ノ団地ノ如キハ位置的条件ノ悪イ所デアアルガ）、本種ト其ノ群叢ノ存在ニハ、先ヅ林業経営ノ對象の意味デ深ク関心ヲ持タレルノデアアルシ、他方、中部日本地方区域ノ南限ニ当リ種子島ヲ含ム極ク僅力ナ小区中ニ、斯ノ如キ大喬木ガ、固有種トシテ重大ナ存在ヲ示シテ居ルト云フ植物地理的珍重事項トシテノ見方ヲ混ズレバ、一層其ノ感ヲ深クスルノデアアル。

### 2 カシ類

（以下略）

地に「タカネゴヨウ」というのがあること。

尚、これらのことは、屋久島営林署、昭和十六年施業案説明書（第二次検討会資料）にも記載され、しかも屋久島五葉松が昭和初期に絶滅に向かつており、その理由を同検討会資料に左のように記している。

「コノ樹ノ種子ハ粒ガ多イ。ソレハ屋久島ガコノ植物ガ生育スルニハ既ニ暖ニナリスギタタメト考ヘラレ、従ツテコノ植物ノ後継ヲ得ルコトハ簡単ナコトデハナク、現在生存スル樹ハナルベク保存シテ學術参考、或ハ紀念物ニスルノガヨイト考ヘラレル。……」

森林保護の問題はかように古くて新しい課題といえようか。